

# にほんごひろば



# 報告

## 部内学習会

国内外の日本語学校では教材として「みんなの日本語」が多く使用されています。私たちの日本語教室でも学習者が持参するケースが多くあります。教え方のノウハウ本もありますが、一般のボランティアにはわかりにくいので、今回は中川講師がわかりやすい解説にチャレンジします。



中川講師

### 開催概要

日時	2024年3月11日(月曜)
	12:10~12:50
場所	中央図書館4階 多目的ホール
講師	にほんごひろば 中川武司
参加者数	13名
司会	にほんごひろば 古沢

### 今回の学習会の内容の要旨

1. このテキストは全部で50課で構成されています。それぞれの課は7つのパートに分かれています。この7つのパートをテキストに出てくる順番で教えてはいけません。
2. 日本人が学校で習う日本語文法は「国語文法」と呼びますが、外国人が日本語を「外国語」として習う場合は「日本語教育文法」が用いられ、これは「国語文法」とは別物です。
3. 名詞を修飾する形容詞の呼び方もユニークです。「い形容詞」と「な形容詞」です。
4. 動詞の活用形の名称もユニークです。「ます形」、「て形」、「た形」などいろいろあります。
5. 動詞の活用形を教えるために、全ての動詞を3つのグループに分けて教えます。「Iグループ動詞」、「IIグループ動詞」など。  
どのようにしてこの3グループに分けるかを学ぶ必要があります。
6. 動詞の活用形のうち、一番複雑なのがIグループ動詞の「て形」の作り方です。音便形と密接に関連しているため、その関係性を説明しました。

# 部内学習会 中央図書館多目的ホールにて 教材「みんなの日本語」の使い方

## 部内学習会の感想（中川）

多くの日本語学校で定番テキストとして使われている「みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ」は日本語教師になるための専門教育を受けた者が、外国人の日本語学習者に初級日本語を教えるためのテキストですが、「にほんごひろば」のような専門知識のないボランティアが外国人に日本語を教えている地域日本語教室でも、かなりの割合（約半数）の学習者が使用テキストとして持参して来たり蔵書から借用したりして学んでいるのが現状です。

一般の日本人は義務教育の「国語」の時間に日本語の文法を学びますが、この「国語文法」と、外国人に日本語を教えるための「日本語教育文法」はそもそも別物で、知らない特殊な用語もたくさん出てきます。このギャップを埋めるためのボランティア向けの研修が必要なことは以前から認識していましたが、このテキストは初級Ⅰ、Ⅱ合わせて50課あり、教材を準備するのに時間が掛かることから今まで躊躇していました。しかしながら一年間で新しいメンバーがいきなり増えたことから、部内学習会の実施を決意し準備に取り掛かりました。

勉強会当日は月曜クラスでは14名の全ボランティアと1名の学習者が、土曜クラスでは3名の方にご参加いただき、1課の教え方の流れと、全50課の中でも一番教えるのが難しいと思われる第14課を取り上げて日本語教育文法を説明しました。最初に実施した月曜クラスでは30分ほどで終わってしまい、皆さん消化不良気味だったのではなかったかと反省しましたが、2回目の土曜クラスでは1時間半ほどかけて、参加者の皆さんとじっくり対話しながら進めることが出来ました。今回の部内学習会が今後の「にほんごひろば」の教育の質の向上に少しでも役立つことを願ってやみません。



多くの日本語校で使用されている定番テキスト、海外でも使用されている。



当日の学習風景